

ハラスメント相談室だより

3月になりました。何かと忙しい時期ですが、いかがお過ごしでしょうか？ハラスメント相談室だより第9号をお届けします。

お知らせ

吹田キャンパスハラスメント相談室の場所が変わります。

吹田キャンパスのハラスメント相談室の場所が、平成29年4月から現在の工学R4棟2階から工学U1E棟4階に変わります。引き続き専門相談員が親身になって相談に当たりますので、少しでも気になることがあればお立ち寄りください。（相談には予約が必要です。開室時間等、詳しくは大阪大学HP「ハラスメントの防止等」をご覧ください。）

吹田キャンパス（工学U1E棟4階）

電話 06-6879-7169



研修教材の貸出をしています

ハラスメント相談室では、書籍・DVDの研修教材を貸し出しています。

個人・研究室・事務部など様々な場面で利用できる教材を貸し出しています。DVDは上映時間数分のものもあり、視聴後にディスカッションするなど気軽に取り組めるものもあります。内容もアカハラ・パワハラ・セクハラと豊富に取り揃えています。

教材の詳しい情報については、大阪大学HP「ハラスメントの防止等」をご覧ください。

貸し出しを希望される方は、総務部ハラスメント対策事務室までご連絡ください。

コラム 相談員からちょっとひとこと

ハラスメント相談室では、現在7名の専門相談員が相談をお受けしています。
専門相談員からの「ちょっとひとこと」を毎号コラムでお届けします。

学生間、同僚間といった、一見したところ力関係はないように見える人たちの間でのパワー・ハラスメントが多発していると感じています。パワー・ハラスメントというと、教授と学生、上司と職員のように、明らかに力の差がある場合を想像しがちです。力関係がないのに、なぜ深刻なトラブルになるのか、学生同士や同僚同士なら、直接話し合っ解決できるのではないかと、単なる仲間内のけんかじゃないのか、などと思われるかもしれませんが、しかし、一見力関係がないように見えても、実は隠れた力関係があることが少なくありません。

学生や職員間の先輩・後輩の関係はもちろん、年上だとか、発言力が強いとか、学業や勤務の成績がよく周囲の評価が高いなどということからも、力関係が生じます。そんな中で、力のある側が相手を貶めるような発言をしたり、強い口調で咎めたりすると、言われた側は、想像以上に深く傷ついてしまいます。発言した当人も問題ですが、もう一つの問題は周囲にいる人たちです。そんなことが起こっていても、力関係があると、周囲は見て見ぬ振りをしたり、力のある人が言うのならと受け流してしまったりします。それが繰り返されると、言われた側は無力感や孤立感が強くなり学業や仕事に集中できず、結局学業や仕事を辞めてしまうということも起こります。

また、勉強会や研修会などの閉ざされた空間で、お互いを鍛えるという名目で一方的な厳しい言葉の応酬を容認するようなこともあります。中にはそれがこの伝統だと、暴言や罵倒を積極的に評価することさえあります。言われた側は、誰も助けてくれない中で自分が悪いのかと、精神的に追い詰められていきます。暴言は人権侵害です。どんな理由があっても傷つけられていい人などいません。

自分自身の発言を注意することはもちろんですが、この場が人を傷つけることを容認していないか、人を孤立させていないかということに敏感になりたいものです。

大阪大学ハラスメント相談室 (秘密厳守)

豊中地区 06-6850-5029 (セクシュアル・ハラスメント)
06-6850-6006 (アカデミック、パワー・ハラスメント)
吹田地区 06-6879-7169 (ハラスメント全般)
箕面地区 072-730-5112 (ハラスメント全般)

大阪大学HP http://www.osaka-u.ac.jp/ja/for-student/ja/guide/student/prevention_sh

